

You, Unlimited



RYUKOKU  
UNIVERSITY

龍谷大学

政策学部



2025

Faculty of

Policy Science

A photograph of a woman with dark hair, smiling and holding a piece of food, likely a vegetable, at a market stall. The stall is filled with fresh produce, including leafy greens and root vegetables, displayed in baskets. There are signs hanging from the stall, one of which says '大石' (Oishi) and another 'JPS'. The background is slightly blurred, showing other people and market structures.

# Creating New Values

持続可能な地域社会を目指し、  
新たな価値を生み出す

現代社会には、さまざまな要素が複雑に関係しているたくさんの課題があります。それらを解決するためには、幅広い専門性と知識、そして解決するための実践的な力をもつ人材が必要です。政策学部では、理論と実践のカリキュラムで、社会の課題を発見し解決に向けて自立的に取り組む市民性を身につけた人材を育てます。



## 都市学

防災や観光などの都市問題の解決と持続可能な都市環境の実現のために必要とされるプランニング技術などを学びます。

## 社会学

人間・組織・社会との関わりやさまざまな社会の問題の発生メカニズムを検証し、理解を深めます。

## 政治学

どのような政策が選択されるかは「政治」によって決まります。現代社会における政治の構造と過程を学びます。

## 経済学

複雑な現代経済の基本構造、価格と市場メカニズムの理解を図ります。

## 政策学

多面的な角度から解決策を導き出す

## 法学

「法」と「政治」は社会のなかで互いに補完し合って機能しています。行政法のほか、憲法、地方自治法などを学びます。

## 経営学

経営に関する知識やマネジメント能力は、企業経営のみならず、あらゆる社会課題の解決にも応用されています。

## 環境学

人間と自然環境、社会環境、文化環境などとの関わりを学際的に学び、環境問題に対して総合的に対策を考えます。

## コミュニケーション学

個人間のやり取りから社会に向けた発信まで、コミュニケーションの観点から社会課題をとらえ解決策を考えます。

洲本プロジェクト

# Regional Revitalization Project in Awaji Island

## 淡路島洲本市の地域再生をめざして

洲本市の地域再生をコンセプトに  
現地でプロジェクトを展開する

洲本プロジェクトでは、兵庫県洲本市をフィールドとして「グリーン&グリーン・ツーリズムによる洲本市の地域再生」をコンセプトに展開しています。活動内容によって3つの班に分かれており、私が所属する班は、地元の方々と協力しながらイベントの企画・実施を検討しています。どうすればさまざまな人たちが地域に関



わりやすくなるか熟慮し、今年度はフェノロジーカレンダー（地域の自然と人の営みを表す生活季節暦）の作成も行う予定です。

### プロジェクト実施に向けて 授業で綿密に計画を立てる

現地でプロジェクトをすすめているという、フィールドワークだけに注力していると思われがちです。しかし、プロジェクトを遂行するにあたっては、綿密な計画が欠かせません。私たちはプロジェクト実施に向けた準備として、大学の授業を通じて洲本市を分析し、課題や目標の設定、逆算的な計画設定を行っています。準備をすすめるなかで、地元の人たちが抱える課題が見えてきました。例えば、島内に総合大学がないことによる都市部への人口流出です。若い人が島から出ていけば、地域産業である農業や漁業は衰退していきます。残念ながら現状のままでは、人口流出や少子高齢化による定住人口の

減少に歯止めをかけるのは難しいでしょう。だからこそ、私たちのような島外の人間との関わりを増やし活動人口率を高めることが、地域再生につながるのです。

### 洲本市への関心を高めるために 島外から若い力を結集する

洲本市では、地域住民と島外からの若い参加者が連携しながら地域づくりに取り組んでいます。実際に地域貢献型の再生可能エネルギー発電事業に多種多様な立場の人々が密に関わっています。私たちのプロジェクトでも行政や企業・移住者・現地住民とつながっていますが、参加した当初の私は、初対面の方との対話や協働作業に苦戦しました。それでも何度か打ち合わせを重ねるうちに、自ら進んで話しかけられるようになり、1年目に企画したイベントは大成功のうちに幕を閉じました。最終報告会が終わり「来年度もよろしく」と声をかけていただいたときは、私も洲本市の一員になれたような気がしました。

# tion nd

## イベントの企画に重要な 3つのノウハウを実践する

私はこのプロジェクトで、地域活動における協働の重要性と物事を企画するうえで必要なノウハウを学びました。特に印象深いのは、地域おこし協力隊の方に教わった3つのノウハウです。1つ目の「因数分解できないか考える」は、大きな問題を小さな要素に組み分けて理解を深める手法です。イベントの場合なら「企画」「集客」「実施」が大きな問題であり、それを細かく分けて漏れのないように考えていきます。2つ目の「逆算思考で考える」は、目標から

逆算して具体的なアクションを洗い出す思考法で、優先順位を立てて今やるべきことを見つけていきます。3つ目の「解像度を上げる」は、問題や課題をより詳しくより深く理解することを指します。私たちが取り組んでいる「地域再生」ということばはとても曖昧で、地域によってその理想は異なります。解像度を上げるには、ことばの意味を正しく理解し、地域の背景を知り、現実を感じなければなりません。このように地域社会と緊密な関係を築きながら、地域貢献のスキルを修得できるのが政策実践・探究演習の魅力だと思います。



竹嶋 大登さん

3年生  
(京都府 龍谷大学付属平安高等学校 出身)

## 政策実践・探究演習 (国内)

「政策実践・探究演習」は、さまざまな地域の問題解決にチームで取り組むPBL (Problem / Project Based Learning) 科目です。話し合いによるまちづくりや、農産物のブランディングをとおした農村づくり、地域資源の再発見・評価を通じて地域社会の活路を見出す取り組みなど、複数のプロジェクトがあり、学部生と大学院生が共に参加し学び合います。学生が自分たちで地域課題を分析し、地域住民の方々や、行政、専門家と協力しながら活動することを通じて、論理的思考力や表現力、マネジメント能力などを身につけることができます。

(科目の詳細は本学Webサイトから「Webシラバス」をご確認ください)

(伝統的なオープンコーヒーの様子)

発表:中西

(修了書授与の様子)

# 環境と人が共生する社会とは

世界トップの環境先進国フィンランドで、持続可能な社会を考えるプロジェクトです。  
先進的な都市計画・環境政策と、人々の幸福度とのつながりを理解することで  
サステナブルな社会を築くための思考・意識を醸成します。

## フィンランドプロジェクト

### 環境先進国フィンランドで見た 真にしあわせな社会と暮らしのあり方

本演習では、フィンランドのラハティ応用科学大学での講義、現地実習をとおして持続可能な社会のあり方を考えます。ラハティ市内の緑地化計画を知り、水処理施設などを見学するなかで、下水汚泥を利用したバイオマス発電や、ろ過した雨水の自然還元が行われていると知りました。これほど環境に配慮した取り組みが、市民の生活に不便をもたらさず実施されている光景に、私は環境と人が共生する「幸福な社会」を見出しました。消費の先には廃棄があり、化石燃料を必要とします。物の豊かさをしあわせと定義する社会構造への問題意識が、持続可能な社会を実現する第一歩となるのではないのでしょうか。演習を通じて、再生可能エネルギーは社会や人の幸福をも持続可能にするとの気づきを得ました。

市来 ゆすらさん

3年生  
(京都府立鳥羽高等学校 出身)



### 政策実践・探究演習(海外)

アクティブラーニングを通じ、グローバルな視点をもった地域づくりを実践的に学ぶ科目。事前学修を経て、フィンランド以外にも、ヨーロッパやアジアなどで長期休暇を利用して現地プログラムに臨むことで、グローバルな視野をもつために必要な価値観の理解を深め、コミュニケーション能力や国際的な視点から地域社会の課題解決に取り組む能力を身につけます。

## キャリア・コミュニケーション演習

### 学年や立場を超えたディスカッションで キャリア形成に役立つスキルと知識を磨く

「良い話し合い」をするにはどのようなコミュニケーションが必要かを考えたとき、「話し手」と「聞き手」、両方の立場に対する理解が不可欠です。この演習では、政策学部OB・OGを含む受講生同士の対話から自分のキャリアを考察し、キャリア形成に必要なスキルや知識を身につけます。自己分析やビブリオバトル、ワークショップ、模擬裁判などの実践的なプログラムをとおして、コミュニケーション力が磨かれ、地域コミュニティでも活用できる行動力が養われました。また、社会で活躍中の先輩方と話し価値観を共有するなかで、社会人になった自分をより具体的にイメージできるようになりました。この演習で得たコミュニケーション力と思考力を、社会課題を見極めるために活かしていきます。

長尾 貴登さん

2年生  
(岐阜県立岐山高等学校 出身)



### キャリア・ コミュニケーション演習

政策学部のアクティブ・ラーニング科目を学修し進路決定に役立てた先輩の報告や、学年を越えた受講生同士のディスカッションをとおして、キャリア形成のうえで必要な知やスキルについての理解を深めます。加えて、地域の課題を見抜き、解決に向けた政策ができる人物像について考え、自身のキャリアデザインにつなげることをめざします。  
(科目の詳細は本学Webサイトから「Webシラバス」をご確認ください)

## Ryu-SEI GAP

### 伏見地域の「生きづらさ」を調査し 学生目線から解決策を模索する

Ryu-SEI GAPは、伏見地域が抱える「生きづらさ」などの課題解決に向けて、学生が主体的に取り組む正課外プログラムです。実際に現地に足を運び、住民や市民団体の方と直接コミュニケーションを取りながら活動を行うなかで、多くのつながりを得られます。私たちは、高齢者の孤独死や生きがいに着目し、伏見地域の「生きづらさ」解消の手立てを模索しました。私はこの取り組みを通じて、問題と対峙する姿勢や思考力、社会課題を自分ごととしてとらえる意識が身につきました。一人ひとりが問題と向き合い行動に移していけば、解決の糸口が見つかるのではないかとのお気持ちも得られ、自分の成長を実感しました。チームで一丸となって課題解決に取り組む過程で、協調性も大きく向上したと思います。

中筋 帆花さん

3年生  
(大阪府立市岡高等学校 出身)



### Ryu-SEI GAP

Ryu-SEI GAP (Glocal Action Program) は、地域社会の課題解決に取り組む正課外の実践型プログラム。京都市「伏見いきいき市民活動センター」を拠点に、地域の課題意識を共有した学生が、LGBTQや地域の活性化、高齢者の居場所づくりなど、幅広い課題ごとにプロジェクトチームに分かれて大学周辺地域で活動に取り組みます。

# Hot Topics

## 政策学部の取り組み

### 1 1年生から地域社会へのフィールドワークを実施

地域での活動をととして社会とつながることで、地域の方々のコミュニケーション能力の育成や、課題を発見する気づきの力を養います。さらにヒアリングやアンケート調査の手法を学び、実際に調査を行うことで、その地域での課題解決に向け研究をすすめます。1年生から現場に出て学び、地域の方々と協働して課題を解決できるようなカリキュラムとなっています。また、正課外の活動では、「Ryu-SEI GAP」といった地域の課題解決に取り組むプロジェクトを行っている学生もいます。このような活動をととして、プロジェクトメンバーと協力して目標を達成するチーム力を身につけ、どのような道に進むとしても必ず役に立つ力を育成します。



### 2 地域の未来をデザインする人材へ

政策学部では「地域公共政策士」の資格が取得できます。環境問題や雇用問題、少子高齢化、人口減少、産業衰退といった社会的課題を産官学民の連携のもと解決するため、協働型社会にふさわしいアプローチで地域の公共的活動や政策形成の主導およびコーディネートができる人材「地域公共人材」の能力を保証する地域資格制度です。課題発見力（地域に根差した課題を見つけ出していく力）、課題分析力（発見された地域の課題に対し、多角的に分析していく力）、課題共有力（地域の課題に対して、チームで課題解決に取り組む力）、地域で活躍できる力（さまざまなセクターによって担われる地域の公共的な活動を理解し、社会全体に主体的に関与できる力）をアクティブ・ラーニングをととして身につけていきます。



## 3 1年生を支えるクラスサポーター

レポート、レジュメの作成や設定されたテーマについてグループで議論することなど1年生をサポートする上級生をクラスサポーターと呼びます。大学での学びに欠かせないスキルを身につけるためのアドバイスや学生生活に関する相談まで先輩ならではの経験をもとにサポートしてくれる強い味方です。また、1年生同士が親睦を深められるようなイベントを企画・運営し、より良い大学生活をスタートすることができます。



## 4 学部の魅力を広めるイベントスタッフ

政策学部の魅力を学内だけでなく学外にも広める「イベントスタッフ」と呼ばれる学生団体があります。日々、政策学部の広報活動をどのように展開していくのか、受験生にとって関心のある話題や事柄は何かを話し合っています。毎年、学生自身が企画した講演会などのイベントも実施しています。また、オープンキャンパスのときには、政策学部のイメージカラーのTシャツを着て、独自のイベントを実施し、政策学部生としての視点から受験生へ魅力を伝えています。



## 5 少人数クラスの演習で段階的に学びを深める

演習（ゼミナール）は、講義科目とは対照的に、みなさんが中心となって学修をすすめていきます。1年次に開講する約20人クラスの「基礎演習」では、4年間を有意義に過ごすノウハウや政策学を学ぶために必要な能力を修得。2年次前期からは、対話・議論能力を身につけ、2年次後期から始まる「演習Ⅰ」に向け段階的に学ぶことができます。



## 6 海外へもフィールドワークに出かける

フィールドワークに出かけるのは日本国内だけではなく、これまでアメリカのカリフォルニアやポートランド、中国の南京や韓国、フィンランドに滞在したり、オンラインを活用したり、日本と比較しながら、海外のコミュニティやグローバルな視点をもった地域づくりについて学びを深めてきました。海外の良い事例を日本にどう反映させていくのかなどの課題を持ち帰り、座学だけでは学ぶことのできない力を養います。



# 4-Year Studies



## 4年間で何を学ぶ？

## 課題解決を超えて新たな価値を生み出す人材を育む

|        | 1年次   | 2年次  | 3年次  | 4年次   |
|--------|---|--|--|---|
| 4年間の流れ | <p><b>基礎をしっかり身につける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●政策学を学ぶうえで必要となる基礎知識を修得する科目を受講。</li> <li>●「基礎演習」で、大学での学びの基本「読み・書き、語り、調べ、考える」を身につける。</li> <li>●「政策学入門（経済学・政治学・法律学）」や「政策学を学ぶ」などで、政策学の基本を学ぶ。</li> </ul> | <p><b>自分にぴったりのコースを選択</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●話し合いの構造やプロセスを学ぶ「コミュニケーション・ワークショップ演習」で、参加・協働型社会に必要な話し合い能力の育成を図る。</li> <li>●後期からは「政策構想・環境創造・地域公共人材」の3つまたは学部共通コースのなかから自分に合うコースを選び、専門的に学ぶ。</li> </ul> | <p><b>専門性を身につけ社会を見る目をじっくり鍛える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コースごとに専門性を高めるプログラムを展開。</li> <li>●フィールドワークやインターシップなど、地域や企業、NPOの現場に入って実践的に学ぶ。</li> <li>●2年次後期から一貫したゼミに所属し、卒業研究を制作するための準備がスタート。</li> </ul> | <p><b>進路を見据えた学び、活動、そして4年間の総括</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●4年間の学びの集大成として、ゼミ活動やRyu-SEI GAPなどでの研究成果をまとめた卒業研究に取り組む。</li> <li>●就職活動も本格的に始まり、学部で経験してきたことを企業に伝え自己アピールするうちに、自身の活動や成長を振り返るきっかけに。</li> </ul> |
| 専攻科目   | <p>専攻導入科目<br/>専攻基本科目（政策学入門シリーズ）<br/>専攻基本科目</p>  | <p>政策構想コース<br/>●地域・都市政策プログラム<br/>●国際・比較政策プログラム</p> <p>環境創造コース</p> <p>地域公共人材コース</p> <p>学部共通コース</p>  | <p>日本、そして世界の地域政策を学ぶ</p> <p>環境にやさしい社会を実現する政策主体の役割を創造する</p> <p>地域社会および地域政策の担い手としての職業人をめざす</p>  |   |
| 演習科目   | <p>基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ</p> <p>地域課題発見演習</p> <p>伏見CBL演習</p>   | <p>コミュニケーション・ワークショップ演習</p> <p>政策実践・探究演習（国内）・（海外）</p>   | <p>演習Ⅰ</p> <p>政策学研究発展演習Ⅰ～Ⅴ</p> <p>キャリア・コミュニケーション演習</p> <p>企業のCSR実践演習</p> <p>グローバル戦略実践演習</p>  | <p>演習Ⅱ（卒業研究含む）</p>  |

### [取得可能な免許・資格]

- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 本願寺派教師資格（受験資格）
- 「地域公共政策士」資格制度「初級地域公共政策士」

### [めざす職業・進路]

- 公務員（国家・地方）
- NPO／NGO団体
- シンクタンク
- 民間企業の企画部門
- 社会起業家
- 環境問題に取り組む企業
- メディア系企業（放送・新聞）
- メーカー
- ジャーナリスト
- 金融機関 など

# Seminars

## ゼミ紹介

教員・  
スタッフ紹介



### 南島 和久ゼミ

## 政策を身近なものとして位置づけ、実生活との関連を見出す



文化庁へのヒアリングを実施し  
聞き取り調査の重要性を理解

中内 一聡さん  
3年生（京都府立鴨沂高等学校 出身）

南島ゼミでは、行政の多種多様な取り組みを調査し、行政と私たちの生活との結びつきについて理解を深めます。文化庁を訪問してヒアリング調査を実施した際には、政府関係機関の地方移転に関して、公表資料では知り得ない情報を職員の方から聴取でき、ヒアリング調査の意義、自分の足で情報を取りに行く大切さを実感しました。調査内容を論文にまとめ、発表を終えたときには、大きな達成感が得られました。卒業研究では「行政のデジタル化に関する課題」をテーマに、行政のオンライン手続きと個人情報保護の関係について考察します。



### 井上 芳恵ゼミ

## イベントの開催をとおり、商店街活性化に貢献



地域住民のニーズをくみ取り  
喜んでもらえることがやりにがい

仲川 駿佑さん  
3年生（滋賀県立東大津高等学校 出身）

商店街や地域コミュニティ活性化をテーマとするゼミでは、伏見区淀地域にある淀本町商店街の活気を取り戻すために空き店舗を利用した図書館を開き、月に一度地域の方々が交流できるイベントを開催しています。近隣の小学生が毎回イベントを楽しみに、遊びに来てくれるのがやりにがいにつながっています。井上ゼミでの、地域の方々と関わる取り組みによって、コミュニケーション力が向上しました。ゼミ長を任されたことにより、リーダーシップも身についたと感じています。地域の住民や市役所の方との交流は貴重な体験になるはずです。

### [政策学部のゼミテーマ]

- 持続可能な〇〇の検討によって、地域社会の課題解決に貢献する
- 食と農に関わる課題解決を通じた地域再生、ソーシャル・イノベーション
- 住みたいと思えるまちのメディアをつくる
- 経営・心理・統計を融合させて、おもしろい研究を大真面目に行う
- 教育や福祉さらには平和といった政治・社会問題を憲法の視点から考える
- 地域経済や地域社会、地域環境を持続的に維持・保全するための制度・政策について考える
- 地域における公害・環境問題の歴史を学び、地域づくりに活かす方法を学び、実践する
- コミュニケーションやことば（言語）を切り口に社会的課題をとらえ解決策を考える

# Life after Graduation



## Graduate's Interview

### 大阪市役所

福祉局 総務部 総務課 勤務

宮岸 李奈さん

政策学科 2015年卒業  
(石川県立金沢二水高等学校 出身)

### Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

雇用と福祉をテーマとするゼミに所属し、主に貧困について学んでいました。野宿者支援のボランティア活動、アフリカのストリートチルドレンの支援など、さまざまなフィールドワークを通じて貧困問題に対する理解を深めました。特に野宿者支援では、生活も価値観も異なる方々とたくさん出会い、バックボーンの違う人との関わり方が身につきました。取り組みに注力するうちにコミュニケーション力が養われたのだと、今改めて感じます。

### Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

社会的弱者の方を支援する仕事がしたいと考え、大阪市役所を職場に選びました。現在は福祉局の総務部に勤めており、市民の方の生活に欠かせない「福祉」に携わっています。職場の方々、市民のみならずと接するうえで、コミュニケーション力は欠かせません。ゼミの多様なフィールドワークで培われた対話力、相手の立場を想像する力は、日々の業務の土台となっています。今後も自分の役割を果たし、いずれは市の就労支援にも関わりたいです。

## My Background



### 大学1・2年生

タンザニアのスタディツアーに参加し、ストリートチルドレンと関わるなど、さまざまな側面から貧困への理解を深めました。



### 大学3年生

年に一度学部で行われる討論会。毎日何時間も仲間と討論した努力が実り、1位を勝ち取れたときは大きな充足感に包まれました。



### 大学4年生

就職先が決定してからは卒業旅行を満喫。インドのスタディツアーにも参加し、マザーハウスでボランティア活動を行いました。



### 現在

大学の4年間で培ったコミュニケーション力をベースに、市民の方々の心に寄り添える職員となれるよう今後も励んでいきます。



## Graduate's Interview

# 株式会社ベイカレント・ コンサルティング 勤務

村上 浩崇さん

政策学科 2017年卒業  
(滋賀県立虎姫高等学校 出身)

### Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

ゼミでは、経営学と統計学を実践的に学ぶため、企業と連携して共同研究を行いました。数百人規模のアンケート調査・統計分析、数十人の専門家へのインタビュー、関係各所との調整など、新商品のマーケティング戦略立案のため奔走しました。企業さまから厳しいフィードバックを受けるなど大変なことは多かったものの、最後の成果報告では非常に喜んでいただけました。1年がかりの努力が実ったと感じ、大きな達成感が得られました。

### Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

コンサルティング業に携わり、クライアント企業の事業戦略立案プロジェクトに参画しています。企業戦略に正解は存在せず、自分なりの考えを提示したり、チームで協働して施策を立案したりするなかで模索するしかありません。そこで役に立っているのが、学生時代に培った情報収集力、統計手法を駆使して課題にアプローチする力です。自分が立案した施策でさまざまな企業さまのお役に立ち、経済活性化に貢献する人材となるのが目標です。

## My Background



### 大学1・2年生

1年生の基礎演習のクラスサポーターとして活動。レポートの書き方、学生生活に関するアドバイスなど幅広くサポートしました。



### 大学3年生

ゼミの1年間の研究成果を競い合う、合同演習討論会。総合優勝を果たしたときの喜びと興奮は、今も鮮明に覚えています。



### 大学4年生

障がい者の就労移行支援のための学生団体「チーム・ノーマライゼーション」で活動。当時の仲間とは、今も近況報告をし合う仲です。



### 現在

大手銀行から、コンサルティング会社に転職。自分のバリューを最大限発揮し、クライアント企業に貢献していきたいです。

# Careers

## キャリア教育の取り組み

### 就職に強い学生を育てる政策学部独自のキャリア教育

1年次から就職を意識した目標を設定し、そのためにはどのように学んでいくかの動機づけを行う科目を用意しています。

さらに2年次からは「働く」ことに対して社会・経済・雇用環境などの観点から理解を深めます。

業界研究・企業の現状や展望を理解する科目もあり、就職に強い学生の育成をめざします。

#### 政策学部独自のキャリアイベント

##### 公務員セミナー・ガイダンス開催

政策学部では公務員試験に向けた試験対策勉強会を開催し、教員による公務員試験準備指導・相談を行うなど、公務員への就職を手厚くサポートしています。また、公務員の仕事を理解し、求められる知識やスキルについて考えるために、国会議員や地方自治体首長経験者を招いての講演や本学OBによる公務員体験談を聞く機会を提供するとともに、公務員試験合格者によるセミナー、試験対策ガイダンスなどを実施しています。



##### キャリアシンポジウムの開催

社会に出てから求められる人材像を明らかにし、学生時代の過ごし方を考える機会を提供するために、企業の経営者や人事担当者などによる講演や社会で活躍している政策学部卒業生によるパネルディスカッションを実施しています。政策学部の学生にとっては、早期から将来を見据え、自らのキャリア形成における気づきを得る場となっています。



#### 起業家マインドも育む政策学部～実践的な学びが多様な選択肢につながる～

政策学部では、社会における問題・課題を「発見」するところから課題を解決する「実行」に至るまでの実践型教育を行うなど主体的な学びを展開しています。実際にビジネスの手法で社会課題を解決する社会起業家を多数輩出するなど、自らが考え実行する力が身につくことで活躍のフィールドが広がります。

##### 株式会社革靴をはいた猫

大学内のカフェで障がいのある若者と共に働いた経験から、障がいのある若者とともに訪問型の靴磨きを行う「革靴をはいた猫」を起業しました。「靴みがき」は「心みがき」をモットーに「障がいのある若者や引きこもりの若者の活性化と就業支援」を目的として、人生に希望とやる気をもてる「場所」づくりに取り組んでいます。それぞれがもつ強みを引き出し、また引き出されながらその力を掛け合わせていくことで「誰もが助け合える社会」の実現をめざします。

魚見 航大さん

政策学科 2017年卒業  
(三重県立四日市西高等学校 出身)



##### 株式会社RE-SOCIAL

起業のきっかけは、政策学部の授業での獣害被害の実地調査でした。獣害被害対策として、捕獲や銃殺されたシカやイノシシは、約9割が焼却や埋設によって廃棄されている現状を目の当たりにしました。そこで、シカの捕獲の効率化を図り、捕獲したシカも有効活用されるという好循環を生む持続可能なビジネスモデルを考えました。RE-SOCIALの行う事業は、多くの地域が直面する課題の解決にもつなげていくことができます。限りある資源を大切に、消費者や地域まで利益を還元できる社会をRE-SOCIALが実現していきます。

笠井 大輝さん

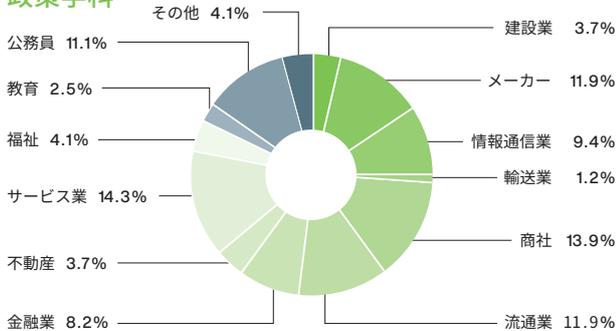
政策学科 2020年卒業  
(大阪府立花園高等学校 出身)





## 就職状況 (2022年度卒業生)

### 政策学科



### [主な就職先]

- 厚生労働省
- 国土交通省
- 財務省
- 法務省
- 国税庁
- 京都府庁
- 滋賀県庁
- 京丹後市役所
- 京都市役所
- 西宮市役所
- 京都府警察本部
- 京都市消防局
- 積水ハウス株式会社
- 大和ハウス工業株式会社
- セキスイハイム不動産株式会社
- 宝ホールディングス株式会社
- 近畿日本鉄道株式会社
- 株式会社大塚商会
- 株式会社良品計画
- 株式会社ニトリ
- 株式会社京都銀行
- 株式会社インテック
- サントリーホールディングス株式会社
- 富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社 など



#### 東京都庁 内定

公務員を志望していたことから、商店街の活性化、里山の自然・農業資源を活用した地域創生に取り組みました。住民との関わりの中で、対話力や現状を把握する力、多様な価値観を享受する力が養われたおかげで、面接の際も、自分の話に説得力をもたせることができました。これまでに培った多様な価値観への理解、そしてコミュニケーション力を活かし、多くの方と信頼関係を築いていきたいです。

#### 小山 七海さん

4年生  
(新潟県立高田北城高等学校 出身)



#### 東日本旅客鉄道株式会社 内定

簡易委託駅の研究で鉄道のあり方を学び、地方の課題解決に取り組むことに興味をもちました。JR東日本を選んだのは、最も地方創生に力を入れていると感じたからです。第一線で経験を積み、いつか人口減少が進む地方と首都圏を結ぶ観光列車を策定したいと思います。気軽に行き来できるような体制を整えて都市部の方に地方の魅力を感じてもらい、地方経済の活性化に寄与するのが目標です。

#### 池上 将史さん

4年生  
(大阪府 追手門学院高等学校 出身)

#### 京都信用金庫 内定

ゼミでは小学校の総合学習に参加しました。地域住民と児童をつなぐ活動を行うなかで、地域社会に密着した仕事をしたいと思うようになりました。京都信用金庫を選んだのは、従来の金融サービスにとどまらず、地域の繁栄のためにさまざまなチャレンジを行う風土に惹かれたからです。ゼミ活動で培ったコミュニケーション力を活かし、個人のお客さまや中小企業の課題解決に貢献したいです。

#### 田中 基支さん

4年生  
(福井県立若狭高等学校 出身)



#### 三菱総研DCS株式会社 内定

社会言語学のゼミで、社会課題の発見から解決策提案までのプロセスを学びました。学びの実践として大学に提案した「国際共修科目」の授業は、実際にカリキュラムに導入されました。その成果が自信につながり、最も頑張ったのはゼミ活動だと胸を張って面接担当の方にアピールしました。内定先では、ゼミで培った主体性や課題解決力を活かし、周囲の誰からも頼られる人材になりたいです。

#### 桑原 颯希さん

4年生  
(三重県立四日市南高等学校 出身)



## 龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、  
将来の予測が難しい時代となっています。  
いま必要なのは、「学び」を深めること。  
「つながり」に目覚めること。  
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。  
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。  
それが、私たちが大切にしている  
「自省利他」であり、「まごころ」です。  
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、  
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、  
より良い社会を構築するために。  
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、  
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。  
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、  
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、  
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。  
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。  
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

## 龍谷大学 政策学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、  
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。  
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、  
他者を受け容れ理解する力を持つ。  
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。  
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、  
自らの可能性を広げていきます。

深草キャンパス

京都市伏見区深草塚本町 67  
Tel 075-645-2285  
seisaku@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫  
から好アクセス

JR「大阪」駅 → 約42分  
京阪「京橋」駅 → 約41分  
近鉄「奈良」駅 → 約43分  
JR「三ノ宮」駅 → 約63分



<https://www.policy.ryukoku.ac.jp>

